令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【小・中・中等教育学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	本校は学校課題研修にて「主体的に学び合う児童の育成～ICTを活用した授業づくり～」を主題として設定しており、以下の3点を重点目標とした。 ・自分にあった学習課題や学習方法がを選ぶ能力 ・算数科における、基礎学力 ・友達と協働したり、考えを共有するために必要な情報活用能力やICTスキル
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	・児童が学習課題や学習方法を選択・決定し、主体的に学習に取り組めるようにする。 ・各教科等の見方・考え方を働かせながら、ICTや対話を活用して考えを形成・整理・表現し、他者と協働しながら学びを深められるようにする。 ・朝の学習タイムを活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着と学習習慣の形成を図る。高学年では、自主学習の計画実施・振り返りを行い、自ら学習を調整する力を育成する。 ・算数科は担任が指導をし、T.T.等で児童の実態を把握しながら支援できるようする。 ・朝のICTタイムを活用し、情報活用能力及びICT活用スキルの育成を図る。

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	国語・算数ともに平均正答率は全国および県の公立平均を大きく上回り、全体を牽引する高い学力層の割合も高い傾向にある。学習指導要領の基礎的・基本的な内容については、両教科ともに高い定着が見られ、朝の学習タイムをはじめとする日頃の基礎学力定着に向けた取組の成果が表れている。一方で、算数の「変化と関係」の領域において課題が見られ、特に割合や単位量あたりの概念の理解、複数の条件が示された表や図から必要な情報を読み取って関係性を捉える設問において正答率が落ち込んでいる。また、国語・算数ともに、与えられた条件や資料に基づいて自分の考えやその理由・根拠を筋道立てて説明・記述する設問に課題が見られる。さらに、全体としては高水準であるものの、基礎的・基本的な内容に定着の遅れが見られる児童が一定数存在し、学力の個人差（二極化）が見られる.
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	計算や用語などの知識・技能の習得は十分に行われている一方で、数量の関係性を線分図や数直線、表などに表して構造的に整理し、多角的に思考する力が十分に身についていない。また、問題の条件や既習の学習内容をもとに「なぜその式や考えになるのか」という根拠を言葉や数式で論理的に説明・表現することに苦手意識が窺える。さらに、前学年までの学習内容につまずきを残したまま学習を進めている児童が少人数存在し、一斉指導の中での個別の見取りやフォローアップがさらに必要な実態が窺える。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	朝の学習タイムを活用した基礎・基本の反復学習や、T.T.等を活用した指導体制により、基礎的な知識・技能の定着を図ることができた。また、「主体的に学び合う児童の育成～ICTを活用した授業づくり～」の研究主題のもと、ICT機器や対話活動を授業に取り入れたことで、児童の学習意欲や思考力の向上に一定の成果が見られた。しかし、算数の「変化と関係」領域や情報の構造化・記述問題において課題が残るとともに、一部の児童につまずきが見られるため、さらなる手立てが必要である。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価（※）	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）　B 6割以上（おおむね達成）　C 6割未満（あと一歩）